

今月の例会報告



輸出の現状知る 農水省 輸出促進審議官 山口氏から学ぶ

講演した山口氏

農業経営部会は3月6日に農業政策・環境・観光グループが3月例会を開催しました。農林水産省より輸出促進審議官の山口 靖(やまぐち・やすし)氏をお招きして、「十勝の農産物におけるこれからの輸出動向の注目ポイント」をテーマにお話頂きました。

山口氏は人口減少に伴って縮小していく国内市場の変化と人口が増加するのに合わせて広がっている海外市場を比較しながら現在の輸出情勢について解説。ビッグマックの現地価格の推移で経済状況をみるビッグマック指数では、諸外国が軒並み2倍以上の数字になっているのに比べて日本は1.3倍ほどにとどまっていることなどに触れました。また、海外での日本食人気が高まっており、文化としての和食への関心が高まっていることを紹介。各国の日本食レストランの数は中東・やアフリカ、ロシア、欧州、北米を中心に増加していること、訪日観光客が訪日前に期待していたことを尋ねたアンケートでは「日本食を食べる事」が1位になっていることなどから日本国産の食品はまだ海外に目を向けることができることがわかりました。



農林水産省では農林水産物・食品の輸出額の目標を2025年までに2兆円、2030年までに5兆円とすると掲げています。農産物に限ると2025年1.3兆円、2030年3.3兆円としていますが、現状は2022年現在で総額1.4兆円、農産物8870億円にとどまっています。近年の伸びも2000億円程度となっており、目標への道のりは近くありません。日本の強みや弱みにも触れながら政府の輸出促進策や支援プラットフォームも紹介され、参加者からは直面する課題等も率直に質問されました。

🚗 ロボットトラクタは大規模畑作でこそ生きる スマート農業のいま

3月16日には、帯広畜産大学 特任教授の佐藤 禎稔(さとう・ただとし)氏をお招きして、「十勝の農家が知るべきスマート農業のいま」と題して、ロボットトラクタの最新の研究を中心にお話をお聞きました。

現在、国内各社から発売されているロボットトラクタは水田での活用を主に想定して作られていることから十勝のような畑作地帯ではできない作業も多く、普及が進んでいない側面がありました。そこで佐藤氏はプラウやポテトハーベスタ、スプレイヤーなどのロボットトラクタで使用できていなかった機械に着目。様々な方法でロボットトラクタの無人操舵中でも使用ができるよう研究を重ね、効率化をはかることに成功しました。現在、トラクターの価格も高騰。馬力の面では海外のトラ

クタにかないませんが、同様かもしくはそれ以下で人手の削減がはかれることを考えれば割安になると佐藤氏は言います。ただし、1枚が小さい畑や一部作業ではあまり省力化ができない点が難点。大きな畑が多い十勝だからこそ活躍の場があることがわかりました



講演した佐藤氏

(今後の予定)

- 3/30(木) 販売戦略グループ例会
- オーガニック給食の実施に取組む農家の活動報告
- 4/13(木) 第35回定時総会
- 記念講演: (株)アレフ 常務取締役 庄司 開作 氏

➤ 農業経営部会今後の予定

年度末を迎え、農業経営部会も新年度に向けて動き出しています。2023年度はアフターコロナも見据えて、これまでよりも様々な取組を加速させるとともに、毎年恒例の収穫感謝祭もより楽しく開催できるよう準備を重ねていきます！